WASON
HQ
1124
J74+
July 1894
no. 389

明治十八年初刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百八十九號

要目

會津城の婦女子
會津籠城の婦人三子近頃ろ當日の事を語る審びらかなり。壯烈何んぞ如此き、感慨究りなし。

外國ミシヨンの補助金
是れ當今の一問題なり、吾人近情に感じて大に悟る所ろのものあり、愚見を直露して社說とす。

道を答ふるの書
中江藤樹先生、男女三子の道を問ふものに答ふ、言辭平凡にして意義卓絕、自から襟を正さしむ。

園照女に關して
英國某婦人なるもの、知己、並に救世軍の某氏、前號の記事に對して問書を寄せたり、眞に一疑問。

三國連想錄
今に際して三國を連想し、思念綿々つきず、玆に十二則に分說して、些さか時務に對する卑見を述ぶ。

明治二十七年七月二十一日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百八十九號目録

社説

外國ミションの補助金

史傳

會津城の婦女子

文しらべ

道を答ふるの書（中江藤樹）
一 答早藤氏書
二 答中川氏老母書
三 與谷川氏書

講壇

教育と傳道
教育と傳道と
教育の最上の目的は何
未だ宗教を信せざる人にして
これと同じく

開書

閨照女に關して
其一（佐伯理一郎）
其二（長坂毅）

小説

橘松佳話（四回）花園女史
くめの岩はし（上）

論説

高橋傳五郎（二）
嬰兒の精神及其發達（其五）竹内楠三
（は）同情

書架

夏日讀書　露伴と紅葉　基督教の特徴
危機一髮　ふみのはやし

時事

果して衝突したり○衝突の結末如何ん○盛なる哉新聞紙○商界の文字ある才人○
三國連想錄十二則

寄書

地方に於ける有教育女子の情態（松籟生）

時報

皇后陛下の御仁德○昌子房子兩内親王殿下◎華族女學校の儉素○音樂學校卒業式○大坂川ロウ井ルミナ女學校○大坂浪花女學校○長崎梅香崎女學校○横濱フエリス女學校○スミス女學校○聖經女學校○女子部生徒の義氣◎節婦勝田むめ○貞婦水島ふさ◎德川前將軍夫人の逝去○青山醫學博士の夫人○鳩山博士の夫人○岩崎久彌氏の夫人○婦人從軍を願ふ○又○憐むべし支那人の風儀○評論の評論

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百八十九號

明治二十七年七月二十一日發兌

社説

外國ミッションの補助金

基督教社會に於て、內外國人共同事業の圓滑ならざるよしは、年來の風聞なり。ことに近年一層の衝突を來し、將に大破裂を生ぜんとするの機會切迫せりと評判せらる。

夫れ、國風感情を異にしたる內外國人、共同の事務を執らんとするとなれば、其間に意見の衝突するとあらんは、免かれがたきの勢ひなりとす。殊に、義俠を重んじて金錢に淡泊なる日本人士が、黃金に威權を連想して、甚はだ事務的の習慣に固熟せる西洋人士と、慈善傳道の事業を共もにせんとするとなれば感情相ひ反きて、意外の確執を生ぜんと、其由緣なきにあらず。吾人は、近年の現象を觀て、必らずしも之を怪しむものにあらず。

然れども、此の現象に對する日本人士の不平を聞き、其の理由とする所ろを承知する毎に、奇怪の念、禁じがたき者往々にして之れ有り。曰く、外國人は、兎角日本人に信任せずと、是れ第一の理由なり。曰く、外國人は、其の傳道資金を寄附として出さず、我に恩を被せて、日本人を雇使せんとすと、是れ第二の理由なり。而して、此等の二理由に激して、慷慨悲憤し、革新の聲、年々に高まりて、今にも破裂せんと評判せらる。吾人は少しく疑がひなき能はず。

玆に一例を擧げんか。人ありて、甚はだ慷慨し、某、某、吾を信任せずと言ひて憤ほるものあらんに、紳士は、之を聞きて、彼を殊勝なりと評すべき乎。吾が信任せらるゝとの足らざるによりて他に平ならざるものは、市井の間、其の人多し。喋々として、他を罵しるの所以、詮ずるに吾を知らずと云ふの不平に歸す。如此き輩、世間極めて多し、何の珍らしきことあらんや。然れども、苟くも、安心立命の地歩を得たりと揚言し、一種の道を覺得し、之を人に傳へんことを欲する所

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の君子にして、他の吾を知らざると、吾に信任せざるとの故によりて、之を罵しらんとするは、豈に殊勝の心掛あるものならんや。廉恥の念あらんものは、當に默すべき筈なり。默して、而して反省し、反省して而して改悟し、正に堅信確持する所のものあるに、尙ほ他の所行當を得ず、反つて吾に無禮を加へ、更に吾が道を輕んずるとあらば、則はち彼は、愚狂の類のみ。愚狂を罵倒せんは、心なきわざにあらずや。而も、其人にして、外來の客たり、何れにせよ、好意を以て渡來したると明白にして、尙且つ從來之と共同の事業を爲したるとを念ふに於ては、之が惡聲を鳴らさゞるは、士君子の雅量にはあらずや。然るに、現に之と事を共もにし、現に其の寄附金を受用し乍ら、彼、我を信任すると足らずと言ひて、公けに慷慨し、事業の成功せざるは、彼が我を信任せざるに由るかの如く吹聽して、隆んに得意の不平を漏らすは、何等の破廉恥ぞ。如此き諸君を信任するもの、何處にあらんや。黃金天より雨り、白銀地より湧き、紙幣木の葉の如く散つて、何の雜作もなき國柄に於ては、イザ知らず、如此き諸君に寄附金を全托して、信じて其爲すが儘に放任せんとする結構人の少なきは、無論の事なり。

更に甚はだしきは、此の寄附金の寄附方につきて不平をこぼし、傳道資金なるものは、當に禮を盡して我に寄附すべき筈なりなど議論するものあるに至つては、笑止を極めたりと云ふべし。傍觀局外の地に立て、かゝる注意を爲さんは固より、當然なりと雖ども、身現に此の寄附金補助金を受くるの地に在り乍ら、其の寄附の仕方、補助の仕方が、當を得ずと慷慨して、而も此の慷慨を氣力あるとのように考ふるに至りては、沙汰の限りと言ふべし。寄附にして、禮に當らずんば、之を罵しるに先だつて、之を謝絕するを道とす。之れを謝絕するの覺悟あり、準備ありてこそ、他の寄する所ろのもの、初めて寄附金と稱するとを得。然るに、一朝此の寄附金を中止せらるれば、騷慌落膽し、殆んど其事業を廢絕せざるを得ざるほどの地位に在らんには、之れ所謂る補助的の寄附金にあらずして、寧ろ維持的の大供給なり。眞實これが寄附を中止せらるれば、大ひに迷惑すべき內情あるをかくし、壯士の言動に遠からざる躍起を爲すは、古への武士が爲ざる所ろなり。今の傳道當路者は、尙ほ之を恥とせざる乎。故に或ひは

寄附金の性質を確かめ、或は寄附の仕方に不平をこぼすに先だちて、先づ此の寄附金は、我に取りて補助的のものなりや、もしくは維持の中心なりやと自問し、其の實際の景況によりて、大ひに勘辨する所ろなかるべからず。當方の覺悟確かと定まり、決心固たく立んに於ては、人の寄附の仕方につきて不平をこぼすが如き、さみしき心得はあるまじき也。夫れ、眞人の戰かひは、無聲、無形なり。騷々、囂々として、慷慨の聲たかきもの、抑そも何ほどの價値ぞ。吾人、近來の不平なるものを聞く毎に、ひそかに同胞の爲めに恥あり。嗚呼、斯の如くして、革新を談ずるとも、夫れはた何の日に革新あらん。眞誠の獨立、未だ俄かに望むべからず。故に輕々しく獨立を論ずべからざる也。

吾人は信ず、ミシヨン、スクールは、純然ミシヨン、スクールたるべし。日本人を聘するも、日本人を雇ふも、實權、外國人に在りて當然の事なり。若し日本人共同共力の實權を握らんとせば、之に相應したる實力の平衡を呈すべき盡力決意なかる可からずと。

吾人は、ミシヨン、スクールに對する不平を聞きあきたり。請ふ之れより、不平者の實際の運動を見ん。もし眞實に決心なく實際に努力するとなくんば、ミシヨン、スクールの問題は既に決したり。ミシヨン、スクールは即はちミシヨンのスクールたるへし。

史傳

會津城の婦女子

明治元年五月十五日、彰義隊江戸上野の東叡山に戰かひ破れ、公現法親王を擁して會津に走る。白川口の官軍、白川、二本松、福島等の諸城を陷いれ、終に八月二十三日を以て、會津の城を圍む。越後口の官軍も亦た、村上、長岡等の諸城を收て會津に會す。當時世に名高かりける會津の籠城なるもの、此時より初まる。

嚮に東海散士、慷慨の筆を揮ひ、彼の時城に籠りし壯烈の婦女子を寫しき。かつて其文を讀みたらんものは、更に當日の細情を聞かんとを欲するなるべし。山川浩氏の姊(山川二葉女史、目下女子高等師範學校の取締たり)、横山主稅(白川口の隊長にて其處に花々しき打死せし名高き勇士、會津藩の若年寄たり)の母、家老柳瀨三右衛門の女(雜賀あさ女史、目下靑山英和女學校の取締たり)、此ごろ打つどひて懷古の物

語りあり。われ之を傍聴して感歎やむとなし。願わくは、太平に安樂して其上の辛苦を知ぬ女流に聞かせまほしとて、則はち聞けるが儘を筆記す。次第不順、談緒混亂するを必ずしも避んとせず。他日増補整調して、一の史傳に整へんが爲めの材料たれと期するの外なければ也。

◎**イザと云はゞ鐘を鳴らすべし**　早々に三の丸に集まるべしとは兼てよりの達しなり。白川口、越後口の戰かひ急なりとて、追々の注進なきにあらざりしが、斯くも俄かに切迫とは意はざりき。八月二十三日早朝より、例の早鐘、城のやぐらに鳴り出せり。スハこそとて、急ぎ三の丸に馳せ入らんとするもの誰か故さらに遲々せんや。左れど、郭外の防ぎに幾分の餘裕あるべしと信じて、斯切迫すべしと意ひし人は多からざりき。朝四ッ時、二葉女史が家より馳せ出でたる頃は敵軍既に城外に近づき、相距ると一二丁。彈丸蝗の飛ぶが如く、啾々として聲あり。随がへて出でし下女は、帯の上より一發を負ひぬ。退ぞく可らず、横ぎる可らず、然れど此外に道なしとて、急奔して彈丸雨注の間を通り、十八藏の陰にかくれて、迂回して、やうやく城に入りたり。

◎**切迫斯の如くなれば**　迚も籠城すら覺束なしと落膽し、當日既に切腹自害せしもの尠なからず。家老、西郷頼母の一家族の如きこれ也。其家、敵軍が進み來りし大街道に尤とも近かりしかば城に入らんともせず、一族同時に自殺したり。夫人ちゑ子（井深梶之助氏の叔母たり）の辭世に

なよ竹の風にまかする身ながらも
たゆまぬ節はありとこそきけ

◎**彼の白虎隊**　が此日打そろひて自殺したるも、時に後れて城に入るを得ず、遙かに恨めしく望見せしうち、火の手大ひにあがつて城は既に落ちたりと誤まり聞き、もはや此迄と斷念して最期を遂し也とぞ。中に一人喉を貫ぬくの力なく、劍を土手に樹て、之に斃れ僅かに瞑目せしかど、尚ほ絶息せずしてありしを村人携さへ歸りて介抱し凡そ一と月にして、全たく癒えしとぞ、白虎隊最期の狀態が世に傳はりしは此人によりてなり。

◎**茲に哀れの物語をのこせしは**　前に引せし横山主税が母、入城のありさまなり。主税、白川口に打死してより、忘れ形

見の一子五才なるは、家の相續なり。ことに、城は防戦久しきにつゞく可らず、此幼兒をも徒らに殺さんは益なきとなり、城外に忍びて時を待ち、成長の後ち、あつぱれ家名をつがせて、主家の讎を報ゆべしと説き聞かすれど、嫁松尾（雜賀女史の妹たり）は首べをふり、殿樣、母樣みな御入城あるに、妾等ひとり外に逃るべき道の侯や、曲げても伴なひ玉へとて聞入れず、母が叱り斥ぞくるに追ひすがりて、城の門外に及べり。弾丸、雨の如く、砲聲雷の如し、暫しなりしも猶豫して立つべきにあらねど、嫁が固執して去らざるにぞ、母は毅然として叱し、かくほどに申すを尙ほ聞入れずば、今日よりは、嫁にあらず、姑にあらず、たゞ勝手の所存にせよと言ひ放ちしかば、さりとては、此上反きまつるとの成るべきやとて、泣く〳〵幼兒を將て、城外に逃れ、母は見送り〳〵城内に入りける。

附けて言ふ、横山主税が最期の始末左のごとし、

主税は若年寄の職つとめたりけるが白川口の惣督承はりて朝よりひまなく心を盡して指揮なしたりけるが五月朔日のやぶれに言ふ甲斐なのものどもにもあるもの哉いでや一軍

させんとて自から小砲をとりて戦かひたりしに哀れむべし弾丸ハタとあたる所ろは要處なりければ再たび動ごくともなく風前の燈とは消たりけり敵はよき武者打得ぬいで首とらんと群がりかゝるを從者なりける男かたに掛けて引退かんとすれども敵目の前にせまりぬれば逃れ得んと覺束なきに左りとて其まゝにやはあるべきと首ふつと押きつて走せかへりぬ。家にもてつきて云々なりと事の由言ひけるに皆人よゝと泣にけり。君はきかせ玉ひて若君ともろともに一の町なりける主税が舘にたち出でさせ玉ひて香奠若干を備へ自からとぶらはせ玉ひ其家人こと〴〵く召し出させられ其の忠勤を稱して幼子幸衞と云へるを御膝の上にいだかせ玉ひて汝が父こそいみじうも働らきて打れぬれまた若きに年ごろ國の爲め心をつくしぬるといかで忘るべき汝もやがて成長し父が志しをつぎて國の柱ともなりねかしとの玉ふさへ御涙にむせばせ玉ふ。重ねて家内のものに仰せられけるは此子よ能くも主税がおもかげおぼゆれ必らず國の寶ともなりぬべしよく〳〵心を用ひて育てあらき風になあてぞとのたまひ玉ふに、御供なりける人々もかたじけなき御恵

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の露は草の下まで殘し玉はざるをよと聲立てゝ泣かぬはなかりけり。

◎左れば未亡人松尾女　は幸衞を將て城より逃たりと雖ど、城万一にして落ちたらん後まで生ながらふべき心はあらず。かゝらん時は、敵の大將の婢ともなり、時を計つて一太刀うらみを報ぜんとて、扨ても涙をのんで母に別れ、城　外　にひそんで、時をまちしとなり。

◎照姬ぎみは　水戸より御養子として來ませし、若殿の奥方なり。万一の折、すべて婦女子は、此姬にかしづきまつれと、兼て內達ありしかば、八月二十三日續々として城に入りける士分の妻女は、直ちに奥に入りて左右に伺はんとするに、茲には、騷ぎを余所にして、ヒッとして物靜かなり。一々細かに姓名を問ひたゞして入ることを許され、さて御前に伺がへば、立居御志とやかに、御姿つねと異ならず。サスがは二十四万石の姬樣と、今更心づよく世に示したく覺えしも無理ならず。籠城三十日、砲聲一日も斷えざるに、姬は日々の御身じまい少しも變らず、如何なる危急の折にも、淺々しき御姿はかつてあらざりけり。

◎お傍に侍べりし婦女子　も後には、二手に別れ、上士の妻女は、看病方に、下士の妻女は、兵粮方に分擔せり。中には、長刀をつとり、戰場のかせぎに加へられんとを懇望せしものも多かりしかど、如何に籠城したればとて、會津の士らひが男子に耻かき、女の助けを假りしとありては末代迄の名折れなりとて許されざりき。されど山本覺馬氏の妹八重子（新島襄氏未亡人）などは、半ば男裝して眉尖刀をふるひ、やゝともすれば、驅け出でんけはひなれば、途には之を奥殿のおそばに引つけ、わざと外向の用を禁じられける。

文しらべ

道を答ふるの書　中江藤樹

一、答早藤氏書

心法の欄柄手に入がたき故病根の御吟味何れも御心得そこなひにて候左樣に御意得の惑ひ故に病の根切成がたきと可被思召候良知くらみ易きは凡心の惑ひをわきまへぬる事底に徹せ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる故にて候惑を辨ふる事底に徹するは師に隨ひ友に交り講論して切瑳琢磨するより外はなく候。

一、文學なき故との御うたがひ御尤に御座候師友に相隨ひ惑ひたに辨へ候へば文學なくても不苦孔門以前の學者文學少なくて堂に昇り室に入方其數を不知秦漢以後の學者文學廣しといへども惑ひを辨ふると淺ければ凡夫におとれるかた其數を不知是にて文學なきとの惑克御辨可有候。

一、産業惡敷故にと是も躰認の誤りにて候産業は境界なり一切の境は譬ばひうちなり我心石の如くかたくすくみ角有故に火出胸をこがし候我心綿の如くやわらかに水の如くすみ候へば天下一のひうちに當り候ても火出不申候境界に順逆有りといへどもさわりなき事是にて御躰認境界をとがめず唯心をとがめ自然の眞水にて邪火を御消可有候。

一、氣質故と是も尤誤りにて候氣質の偏は中に不叶所有りといへ共眞樂のさはりにはならざるものにて候唯習のたゝりにて惑を辨へがたく境にも被移にて候習魔を降伏する工夫は面上々にて可申談候。

二〇 答中川氏老母書

後生之事一大事と思召旨御尤に存候後生一大事なれば今生猶々一大事にて候いかんとなれば今生の心惑ひぬれば後生惡趣におもむく理り有故にて候佛の後生一大事とおしへ給ふも今生の心を明にさせむためにて候大乘の法門は皆此心得にて候朝夕をはかりがたき浮世にて御座候へば心の内の如來を拜し給はん事何より以て大切成御事に候。

三〇 與谷川氏書

八幡濱にて御迷惑の由差てもなきすくみにて御座候自己心上の邪を能さり他人の不禮不義をば御かまひある間敷候汝は汝をせよ我は我をせんの心持肝要に候座敷なりに御もてなしのよし大方は能御座候其上に自己心上の獨を御愼み有べく候昔程明道程伊川兄弟共に酒宴の座に御座候時酒のあいさつに遊女出てうたひまひ候へば伊川は座を立やふり御歸り明道は其儘御座候て酒宴事おわりて座中の人々と一度に御歸り其明の日明道伊川御對面の折節伊川は昨日の遊女を嫌ひめされたる心とけず顏色おだやかならず候へば明道の曰昨日座中に遊女あれども我心に遊女なかりき今日座中に遊女なけれどもそなたの心に遊女ありと戒給き伊川も不及所と嘆じ給ひとなん是

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

にて能御躰認惣して誰にてもむかひの人に目を付たるは惡敷候唯自反愼獨の心にて我むかひをあひしらふべきほどを能考へてあひしらひ向の我を悅と不悅とはかまわざるか能候。

講壇

敎育と傳道

左は日本基督教會大會演說會場にて演述の大意なりとす。

十數年前、敎授ドラモンド氏が「靈界に於ける自然法」と云へる一書を著述せられてより、從來、黑白生死の如く別離せられたる、二つの境界が接近し來り、其異同類別の在る所ろが明晰となりたるにより、双方に行わるゝ二種の理法の眞相を確認し、人の知覺を一洗し、更新したり。眞とや、見へがたきものを、見るほどに明らかに認めしめんとせば、先づ見る所ろのものを用ひて之を說明せざる可らず。此の見ゆべき總てのものを用ひて尙ほ說明するとを得ざる境界に至つて、則はち彌よ其の見へがたきものを見ゆるほどに說明し得るもの也。雲か、山か、呉か、越か、彷彿として、何處や水、何處や天と分けがたき彼の一方を望まんとき、先づ水を以て天になぞらへ、天を以て水になぞらへ、上に、下に、下に、上に、比較し、對照し、其の似たる限りを眼こにて追ひゆき、遂に模糊、靉靆、青一髮と云へる分け定めがたき所ろ迄で詮究して、而して後ち再たび、上に、下に、下に、上にと見れば、天の色はいよ〳〵かゞやきて蒼く、水の色はいよ〳〵波だちて亦蒼く、同じき蒼さを悟ると共に、亦相異なりたる或ものを確認するもの也。靈界と自然界との類似、異別、を考ふるも亦た如此し。ドラモンド氏が著書は、則はち初めて此の觀察法を大ひに善用し、極めて巧みに靈界の眞相を發揮せしめたるもの也。吾輩が今ま、

敎育と傳道と

の二つの境界を比較對照して考がえんとするも亦た同一の精神、同一の作法によりたるもの也。此の二つは、靈界と自然界との相ひ離るゝほどに遠く離るまじきものなるに、何等の情感ありてか、人の心のうちには、甚しく分離せしめ、時としては、靈界と自然界との分離よりも更に甚しく分離せしめ

殆んど相似たる所ろの極めて尠なきものたるかの如く、感覺せらるゝは、寧ろ不思議の有樣なりと思はる。抑そも、此の二つの境界は、全く相ひ異なるべきものなる乎、もしくは全く相ひ同じかるべきものなる乎と云へる二つの問題は、大ひなる問題にして、亦幾多の議論を要すべき問題なり。然し乍ら、極めて味ひある問題にして、尙ほ實地に益多き問題なりと信ずるが故に、不肖を忘れて多少の意見を挿はさまんとは、年來の意見なるが、今は玆に、此等の議論を廢し、只だ先づ、其の何如に相似たるものなるかの一斑を、極めて大躰に說明し、諸君の一考を煩はさんと欲す。先づ、

敎育の最上の目的は何ぞ

と問はゝ、人の本然に所有する天の賚を開發し、人の當に達すべき理想に接近せしめ、同化せしめ、以て人の到達し得べき最上最高の地位に進ましむるにあらん。而して、傳道なるものゝ實地の方法は、何如んと問ふに、先づ、人をして己れの實相を覺省せしめ、天地の主たり、万物の帝たる、至善、至正、至美、至愛の神に向はしめ、歸らしめ、近づかしめ、交はらしめ、遂に之に似、之に同化せしむるとにあるならん。

然らば、二つの目的は、畧ぼ相同じく、殆んど違ふ所ろあらざるのみか、其方法に至つても、莫大の相違はあるまじきものなるに、現在世上一と通りの感情に於ては、全く之を相違したるものと認たむるは、何ゆへぞ。吾輩思ふに、

未だ宗敎を信ぜざる人にして

傳道は敎育と畧ぼ相同じきもの也との觀念を得たらんには、今の如き幾多の誤解は過半乍ち消滅するならんと信ず。彼の人等は、天に對し、運命に對し、未來に對し、理想に對する、崇高幽邃の本性を所有し乍ら、之を開發するとをせず、只だ唯だ、卑淺凡俗の敎養にのみ甘んじて、人性尤とも高尙なる所ろの養なひをせざるは、何如なるとぞ。彼の傳道なるものは、即はち此邊の敎育を爲すものなり。敎會は、一の學校なり。牧師は、一の敎師なり。安息日と云へる定日に、此の敎場に集まつて、高尙なる敎育を受く。或ひは歌ひ、或ひは祈り、或ひは修め、或ひは聽きて、天地世界人類万物などに對して濶大崇遠の思想を開發す。これ眞とに尤とも高尙、尤とも切要の敎育にはあらずや。然るに、宗敎と云ひ、傳道と云ふものを、餘分の修養と見做し、人間に缺くべからざる敎育

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の一種なりと覺らざるによつて、等閑にすると如此し。未信の諸君子、もし一念を茲に到らせ、人として受くべき最上最美の教育を缺くと思はんには、今日の如く傳道を輕ろんじて之を遠ざくるとはあるまじ。

これと同じく

既に信じたるものも、又、道を傳ふる當路の人も「傳道は教育なり」との一觀念を得たらんには、修養、教化の方法、今日とは、大いに趣むきを異にするとならん。今ま、試みに、三四の例を擧げて、此を證せん。

開書

園照女に關して

◎其一

拜啓陳は園女に係る一件は爲日本女子躰面不容易出來事に候處六月中の女學雜誌に兩度井上次郎氏の名前を以其訪問記を御出版被成是にて世人が同女に就き注意すべき緒を開き其勞は以て深く貴社に向て謝する處に候惜哉其公報は本の外面の觀察及談話に止り未た内部の解剖なく遺憾とする處なりと雖とも之を端緒と爲し漸次筆鋒を進て其是は擧け其非は懲らし以て日本女子の躰面を維持せられんと貴社の方針なるべしと察せられ多少慰る處有之候何卒此上十分確實の事を御探出し御報告希望仕候却說右訪問中小生の傍觀を許さゝるものは第六五六葉第四行以下「妾が英國にありし時」云々以下第九行の「對審いたしぬ」迄の記事なり此一婦人とは「ミス、マクレーン」の事に相違有之間敷而メミス、マクレーン Miss Mac Lean が決して斯かる卑劣の人物にあらさることは余輩の深く信認する處にして女史は日本人若くは日本の事物とさへ云へは之を保護し之を稱道し主として在英日本人に眞正なるクリスチアンインフルユーエンスを與へ一人にても救改に導んとの精神なるが故に一たび英國に遊ひたる日本人にして女史の訪問を受け且つ其恩惠に預からさるものは尠なし其一二例を擧けんに於東京は予の知る處にても和田垣謙三（法科大學教授）島田三郎植村正久三好退藏稻葉子爵（舊淀藩）植村俊平（バリストル）等最も其助力に依り益せられ於京都於大坂又彼帝國軍艦千代田乘組の士官水兵百七十餘名（吉野號も同し）の如き其他夫の Japanese Village の末路困難飢餓に陷りたる數十人の無賴者の如き皆多少女史の恩惠に浴せさるものなし女史は實に在英日本人の恩人なるに却て斯かる汚名を被らしめたるを誠に氣の毒の至に不堪余若し暇あらば女史が是迄日本人に向て如何なることを爲せし乎を記し貴社の女學雜誌に寄せんと欲す余は先般園照マクレーン事件裁判の判決書を英國に申遣はし置きしを以到着次第貴社にも贈る可し是を一覽せば果して園女が言の眞實なるや否やを知り得へし

兎に角女學雜誌三八六號第六五六葉七行の

ひそかに莫大の利益をとり、妾は非常の損を爲せし。

との記事は此日本の恩人ミスマクレーンに對し寃の最も甚しきものなるが故に何れかの手段を以取消若くは取消さしむる樣いたし度尊慮如何井上君とかにも御照會之急何等の御返答に預かり度奉願候早々頓首

七月十日　　佐伯理一郎

追て兼て原田助を經て差出置候園女が金錢上の所置に關せるマクレーン氏が印刷せる一紙文も其後公然出版するも不苦と申出候若し御差支なくば飜譯御出版相成度候也

女學雜誌記者御中

◎其二

拜呈益々御多祥奉賀候陳者第三八六號貴紙上に於ける氏御問答記事中大に事實相違之件も少からず候間失禮を顧みず卑見開陳可仕候即ち英國に於て一婦人の爲に莫大の損失を蒙れりとそは Miss Mac Lean と申婦人に御座候然し園氏が同嬢に關

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

し損失を致せし事は毛頭無之候固よりかゝる事件は片言以て其眞僞を判するを能はず故に失禮ながら公平無私を以て自任する倫敦基督教新聞記者Morgan Esq.を御紹介申上候間同氏へ御照會相成候はゝ自然黑白明瞭可仕と奉存候尚 Miss Mac Lean に係はる別紙印行物一葉御高覽に供し奉り候但し御一覽濟之上は早々御返戻奉願上候　英國に於て彼人はアヤマリ證文を出したりくはしくは吳氏御承知云々と（吳氏は目下孟買在勤と奉存候）是正しく小生を指したる事と奉存候尤も小生は不得已場合より園氏に係はる一事に相關し候得共決してかゝる證文を起草仕候覺へも無之若し假にこれありとすれば長坂は如何なる文にて何人に宛て差出し今何人の手に有之哉相正せば一目瞭然たり故に本件に付一應小生より園氏に談判相試度存候得共小生より掛合候ては彼必ず答へず無益に紙筆を費すのみ付ては御手數樣ながら貴下より一應園氏に御聽糺し被成下度奉願上候園氏のロンドンに於ける不始末を識る者本邦に於て目今の所小生の外無之と奉存候其他氏の自著と申さる一小册子上甚しき記事なも多く見受け申候故に小生の愚眼を以て前號以來の貴紙を拜讀するに大に事實相違と認め申候今其一例を擧れば園氏の募金英米に於て凡そ日本金壹万圓に有之候事確實也（募集の金高は印刷物に壹万圓と明記有之候）然るに此新築を爲すことに一年位ひ支へることは出來ますするつもりとは計算上ちと明瞭ならざる所と奉存候 Miss Mac Lean の人となりは Dr. Saiki.（西京）或は植村牧師等に御問合せ相成候はゞ如何なる人物なる哉御分り相成り可申と存候兎に角小生の名譽に關する記事丈けは早々明瞭相成候樣御取計相成度此段御依賴申上候匆々頓首

七月初六　　　　長坂　毅

二伸今一二例を添ふパリス教師より領洗之義は大に疑はしき所あり目下問合中多くの人は領洗なしと云ふそは園氏は更に教會の證明書を持參せられずビショップビカステスの教會に屬し居る杯は全く空言なり芝教會にツケ届云々も小生は大に疑ひ申候如何となれば先日和田牧師拙宅へ御光來の節同氏も大に疑ひをいだき居らるゝ由申聞られ候御參考まで申上候

小説

橋松佳話　第四回

くめの岩はし（上）　花圃女史

金蛇幾條はせちがふと見ゆる青海原、東西南北見わたすかぎりは地平線にかぎられて山もなく、陸もなく、行衞白雲の朦朧として月を遮るもおもしろく、影は鏡の如く清き海にうつりてしづけき夜のさまなれど、うき寐に故郷へかよふ夢もむすびがたくや、甲板に行きかよふ人影多く、うちかたらふ聲く、たえずくゆらす煙に嘻々の笑聲もうちまじりぬ。こなたに月を背にして、二人の男女打むかふ、男は年頃四十餘りなるが顏赤く髭黑く腰のめぐりふとく、腹ふくよかなるをそりかへりて、椅子に依り、なほつき出せし躰の半ばより月かげさして、縞ヅボンにかゝりし金時計の光眼ばゆし、左の無名指にはめし指輪、叉月にてりそひたるを右手もてこすりながら「アハヽ、どうも御見かけ申た處が兄弟でもなし、かんて

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

いがつかなかつた、何も人の心事に立入て、考んでもよい事だが、アハヽヽ、キウリオシチイに驅られて何でスラ志かし御樂みな事ですな、モウ、エンゲーヂメントの中の樂は、又とないものだ、僕見たやうに、リングか指へくひ込でぬけなくなる程ではだめです、だめです、とふる手に又光る指環「志かしはなれないといふいひぐさになりませう」これは成程、橋本君の言のごとしだと突然側より口を出すは二十七八の口の上にうすひげのある生徒上りらしいこの肥滿人の同伴「又はじまつた瀧本君、君は何ぞといふと嘲弄する、さうも女房が持たいかといひながら背へ手をかけて動かす「ダが時任さん見たやうに琴瑟たゞならずといふのはめづらしい中々水產の取調なんどうはの空でせう 時「馬鹿アいひ給へ、假にも長官へむかつて、生意地千萬ナ慮外ものめがと奸猾出したりヤ、ちやかしてもみたりかアハヽヽヽ 瀧「イヨ出ましたナ、志かし君の方が達磨さまのやうだアハヽと沓音三ツ四ツ高くさせておもしろがるに 時「コレサなんぼ書生だからといつてそれではこまる、少しつゝしみ給へ婦人の前だ、婦人といつては當世ッ子には價がない、レディの前だ、レディの前だヨといやア橋本君、君も大學校に御出であつたさうですが一向御咄しも承はりませんでした、僕も一寸敎授の椅子に坐りましたが、直に農商務省へ出て俗吏と墮落しました 橋「何、一年計居ましたが、少し目的があつてよしました、瀧本君は四五年前御卒業ださうですから大方入ちがひになりましたのでせう 瀧「さうかも志れません、志かし一所にゐても大學校は雨降あげくの子子のやうにウヨヽヽ生徒がゐますから、御目にかゝつた事があつたつて覺えられません、その子子がどうも水はなれが六ケしい、首尾よく羽がはへて蚊になるやつもあるが、又子供の手にかゝつて金魚の餌になるものもある、そのまゝ水のなかで死でしまふのもあるが君はこれからどうするつもりだ、マア蚊になつて廟堂に飛揚するかどうだ、とかくは民間にゐてなんかんといつてゐて金魚にたべさせられるやつが多いやうですが、君は官途の御望みはないんですか 橋「つかんときめたわけでもありませんが、強つてつかふとも望みません末は金魚の餌食もありがたくない、マア水のなかでこのまゝ死ぬたちでせう「コレ／＼水のなかで死ぬ、船中にては左樣の事は申さぬものにて候兩君にもえんぎでもない

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ことの給ふナ、だが橋本君かはつた所へ御出張は、やはり水産の上に思召があるんですか 橋「イヤさういふ立派なはなしではない、實は八丈島が僕の故郷ですからまゐりましたが幸に父も存生で小笠原島へ移住したといふことでゆる〳〵面會しての歸途丁度よい都合に御同船をいたし升 時「ハヽア八丈島の方ですカ 瀧「わたしや山口でスと瀧本はまた側から喙を挿み「どうも地靈人傑といひますがどうも人物は土地に干係があるやうでス 橋「さういふこともありませうと橋本はさわらず答ふ操子はともなひし宗平と都はあなたなりなど指ざし物がたりゐしが、橋本の側にきづ〳〵と歩み來て「よい月でムり升、東京でもみなさんが御月見でもしていらつしやいませう 橋「さうです實によい天氣です、こゝら邊は黒潮の道で名代の難所ですに、かう穩なのは大仕合でス瀧本は猶も先のはなしをつゞけんと「橋本君々々僕はさうおもふ、狹い土地に生れたものは、どうも根性までせまいやうだといふを時任は 時「瀧本君大分シャンパンが廻つたかいやに人に議論をふきかける 瀧「決してさうでない、たゞどうもちひさなところからは偉人物は出ないとおもふからサ 橋「さういふ理もありませうと取あはぬ橋本の袖引て操子が 操「アノ那波烈翁はコルシカと冷笑して小聲にいふを時任は早くもきゝつけ 時「さうだ〳〵、那ポレオン、成程、これァ一ばん瀧本君出そこなつた、アハヽと笑はれて瀧本は「那ポレオン、なぜあれが偉人物だ、イムポシブルといふことをいはないとかで馬鹿我慢がつよいやつにやちがひないが、第一におのれの志す所がイムポシブルといふのに氣がつかない眼先の見えない男だと僕はおもふ、チー橋本君時任君さうぢやありませんか 時「こいつは咄しがこゝらがつて來た、御免だ〳〵と時任はシガーの灰を彈て再びひげにふくみ身を起し立て行。瀧本は猶も橋本に向ひ 瀧「チー橋本君、君は那ポレオン崇拜の講中か 橋「別段崇拜といふでもない、成敗は天たう次第、その時の遇不遇に存するものと見ると、誰がゑらいといふことは出來ぬ、あのなにかの戰争の時であつたか那ポレオンの側らにゐた兵卒が敵のすきを見出した、あそこへつけこむといゝと大將に助言をした、その通りにやつて大捷を得たのだ、那ポレオンは凱旋の後に、其男をさらべて見たら面部を砲擊されて死でゐたといふことがあつたやうだ、そこです、その

男に運があつて、生てゐたら那波レオンの上に出る大英雄であつたかも志れないからといふ答へに別段議論もせず 瀧「さうかねハヽアとき〻流して此又時任のあとを追て行、動くとも見えぬまでしづかなる船の上、月しろくまなく晴朗なる大空茫然と見上けゐたる操子の側へ橋本はたゞずみて 橋「ゆく時よりは歸る時の方が却て古鄉の事をおもひ出されるものモウ歸りたくなりましたらう。 操子は愛らしき笑を目のふちにたゞよはせて 操「なんでムり升かこの船のむいてゐる方が東京だと存しますとなつかしいやうな心持がします、そしてあの御系圖が知れ、おとゝ樣に御目にかゝつた事なんどをはやく母にもはなしたくツて 橋「實に思ひがけない事でした、とても分るまいとおもひましたが、アヽむだとおもつて志らべて見ましたら、イヤ奇遇といふべき次第でして、これも全く宗平が力です 宗「ナニわたしははじめから志れまひとはおもひません、さがせば、きつとわかるときめてゐました、だからはじめに笠野といふ大名の子孫がさうではないかと、アノそれ五助といひましたケ、あの獵師がいつた時になんだかモウそれにちがひないやうな心持がして、すぐにその笠野さま

を尋ねやうと存じましたけれど、あなた方がそんな事はあるまひとおつしやるもんだから、八丈から移住したといふ家を大村や本村て七八軒もさがして見ましたが、やつはり志れない、そこでまた五助にきいた袋澤をこして、巽湊へ出て、そのかたを尋ねて見ましたか、案の定、それが御尊父樣で、笠野家の御血統、奥樣の御里方の御末家の御緣とまでわかつたは宗平か胸に丸でない事ではありませんながらも、不思議におもひました全體此間も申上ました通りわたくしの親父は奥樣が御當家へ御緣付の時に御附添てまゐりましたものでムり升から、笠野家のことは存じて居升、そこでわたくしに咄しましたは、笠野家の御別家から、森樣へ御養子に御出になつた御方が、あつて、其御方が御養母樣と御折合がよくない、そこにまた森樣の御家中に惡者があつて、そこへつけこむでいろ〳〵とたくみをして、とう〳〵廢嫡の都合になつて、同じ御家柄で其頃御役を御勤めの、なんとかいふ御家から、御養子を御迎へになつたのですが、何か譯があつたものと見えて、養子戻しにはならんで御下屋敷へおし込同樣になつてござつたさうで、何でもそのあとの御養子の御實家が御役を御

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

勤の勢で、公邊向はうまくやつたものだと見えます、ところがそのおし込若樣に御子があつたが、そのうちに御隱れになつて、其御子さまは、日蔭もので先家來同樣のものであつたが、段々御生長になつてからは、御家中の内に、また先の若殿樣方もあり、かの權家から御出の殿樣も御家督早々御かくれといふ次第で、その手合がその日蔭ものを出して、かの奸臣原を逐のけやうといふものが出來て來る、そこでどうこしらへたものか、公達へ對し罪におとして御家中の内に腹を切らせたり、國許へ放逐したりした上く、かの若殿の御子樣もその仲間に入れて公達からの沙汰にして、外の御家中のもの二三人と八丈島へ遠島となつた、尤直に赦免になつて、外のものは歸つて來たが若殿の御子丈けは、かふいふと爲朝のはなしのやうですが、島の豪家の娘におもはれて、それぎりに島に殘つてゐられるが御きのどくなものだ、といふことでした、それは子供心ながら覺えてゐまして、あの五助が笠野樣と申ました時笠野樣とは森樣の若樣の御實家、では、父のはなしの方ではないかと直に考へましたが、かう考へ通りにゆくとは御兩人樣實にはなしのやうで厶り升、この度の御相談に、笠野樣からなにか御故障でもあるやうに承りましたが、洗て見れば其御家の御血すぢとなつた日にや、わけもない事、御同意になり升、三方四方、御目出度治りました、さぞ殿樣にも御滿悅、ア、御悦の御顏つきか見えるやうに存せられ升、操子もまた其折のことおもひ出、おもひおよび、たゞうれしさそつゝみあへぬ袖ひねりてことばなし。

高橋傳五郎（二）

◎彼れ一日席を更ためて方義に衷心の決意を露白す。其最後の一事の爲めに、あらゆる經驗を積み、あらゆる鍛錬を爲し、期至らば挺然進んで、一死其の決意を陳ぜんとせしなり。もし此の最後の決心こゝに在りしと知る者あらば、彼れが一生のすべて献身的なりしは當然の事と悟るなるべし。人間最後の決心既に定まり、死を决して固く執る所ろのもの堅立すれば、暴風荒波も尙ほ平地の如けん。凡俗が見て彼に難しとせし所のものは、彼にありては實に平々易々の事たらん耳。

論説

嬰兒の精神及び其發達（其五）

（は）同情

竹内楠三

世人多くは謂らく、進化論、或は自然陶汰說の敎ゆる所によれば、自愛、自利の情は人類固有の性質にして、愛他心の如きは決して本來存するものにあらず之れ全く各人が已れを愛し、已れを利せんとする方便として發生したるものに外ならずと。然れども之れ未だ能く進化說の何たるを知らざるものゝ誤想たるに過ぎず、實際進化論或は自然陶汰說の敎ゆる所は彼等の想像するが如く、人類を以て本來全く自愛自利のみの動物なりとなすにあらず、人類は社會的動物たると同時に純然たる愛他の感情をも有するものとなすなり。抑も自躰の生存を保持し、且つ之を利せんとする傾向は獨り有意有識の高等動物にのみ現はるゝにあらず、最下等の動物にも既に存し、また植物にも存する所の傾向にして、一切の生物が其生存と共に有する固有の能力たるなり。若し斯の如き傾向なからんか、生存てふことは一瞬間もできざるべし。即ち生物が種々の機關を有し之れに依りて活動をなすは此目的に適合せんが爲めなり。然るに生物は個々獨立して自躰の生存を保持するのみに止らず、子孫を產出して其種族の生存をも保持せんとするものなれば、自ら種子を養ひ、子を育つるに適したる傾向已に具はりあるものとす。此傾向たるや全く自躰の幾分かを損して他を利せんとするものにして、利他的傾向の萠芽とも云ふべきか。例へば鳥類が巢を造り、哺乳動物が乳汁を分泌するが如きその一例なり。而して人類の如き高等なる動物に至りては、單に子孫を產出するのみに止らず、夫婦の關係を生じ、一定の家族を形造り、又たその人員漸々增すに從ひ家族は增大して一部落となり、又た他の部落と合して大なる集合躰となるに至るものなり。然るに斯の如く人類が互に結合して社會をなすには、之を結合せしむる力なかるべからず、而して此結合力となる事情種々あり、外界の制限、自利の傾向等も固より其の事情の一たるべしと雖ども、尙ほ他に一の必要なる事情なかるべからず。何ぞや、即ち已れを損して他を利せんとする愛他的傾向なり。此傾向たるや、恰かも生物が個々の生存を保持せんが爲めに種々の自利的機能を要し、又た種族の生存を保持せんが爲めに生殖、養育等の特別なる生理的作用或は本能を有する如く、社會の生存を保持し之を發達せしむるに必要なる事情として、社會の發生と共に自ら存するものなり。若し之れなからんか、外界の事情によりて人類は一時集合するも、決して永久の結合は生ぜざるべし。之を譬ふるに酸素と炭素とが化合して燃燒を起すは固より接近及び熱度などの事情なかるべからずと雖ども、また二原素間に互に相結合せんとする親和力あるに依りて然るものなるが如し。然り而して人類間に存する愛他的傾向たるや、自然陶汰が人類をして社會的結合をなさしむるに當りて生じたる結果とも云ふべきものにして、既に述べたる如く下等動物にありては單に生理的機能たるに過ぎずと雖ども、高等なる人類に至りては、母が子に對する慈愛となり、夫婦間の愛情となり同胞或は友人間の親愛となり、或は人類一般に及ぶ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

惻隱の情となりて現はるものなり。斯る愛情は全く自然陶汰が社會的動物たる人類に賦與したるものにて、純粹なる愛他的、利他的感情なりと雖ども、吾人が今日の社會に於て實際目擊する所の愛他的行爲は斯の如き純然たる愛情のみによりて起るものにあらず、或は自利的感情の之と混合せることあり、或は唯だ外形のみ愛他的にして其實全く自利的なるものあり。然りと雖ども自然陶汰が社會をして益々進歩發達せしめ完備せる國家となすは、其内部より視るときは、人類が自愛自利の分離的感情を漸次減少して、愛他の結合的感情と益々增加せしめ、全人類を愛情によりて結合したる一躰となすものにて、希臘の古哲エムペドクレスが所謂「スフェーロス」の狀態を人類社會に見るものと云ふべきか。

一個人の發達につきて之を觀察するに、嬰兒が心情の發動と共に、自躰を保護し、自躰の生存を利せんとする種々の感情現はるゝものなりと雖ども、之れ全く無意に發する感情にして嬰兒自ら己れを利せんと自覺してなすものにあらざるなり。嬰兒が始めて種々の活動をなすや、其激因となるものは漠然たる快或は不快の感情にして、自愛自利の觀念にあらざるは明なり。如何となれば己れを愛し、己れを利せんとする欲望は既に自己の觀念明かに分化したる后に於て起るものなるは勿論なり、然るに嬰兒が自己の觀念を得るは生後速かなるものにあらず、漸次種々の經驗を積み、心情の分化發達するに伴ひて漸く自己と他物或は他人とを區別し得るに至るものにして、最初に於ては自己と外物との區別未だあるものにあらざればなり。人類全躰の發達も亦た之れと異ならず。故に人類の行爲は快樂説を以て説明し得るものなりと雖ども利己説即ち「イゴイズム」を以て悉く説明し得べきものにあらず。世人往々快樂説と利己説とを同一に考ふることあり、之甚だしき謬見と謂ふべきなり、而して愛他的感情の主なる要素とも云ふべきものは同情、即ち他人の苦痛を見て苦痛を感じ他人の快樂を見て快樂を感ずる傾向なり。かゝる傾向は兒童が未だ判然たる自己の觀念を有することを表出せざる以前に於て既に本能的に存するものゝ如し。即ち本能的に發動する利己的感情と共に相混じて現はるゝものなり。固より同情他人の表出、即ち笑顏、皺面などに感應して起るものなれば之れを辨別し得る識の發達と相伴ふて發達するは勿論なりと雖ども、未だ經驗によりて笑顏と皺面の何たるかを辨別する能はざる以前に於て、嬰兒は既に他人の顏面に於ける表出に感動するものゝ如し。ダーウヰン氏の一男兒は六ヶ月と十一日にして、其乳母が泣き眞似をなしたるを見、其口の兩極を壓下し、憂愁の顏色を表はして摸擬的同情を表出したりと云ふ。サレー氏の記する所によれば、十二ヶ月の一男子が溺死したる狗の池より引き上げられ、地に埋めらるゝを見て、落涙にむせび、尙ほ爾來數日間彼の不幸なる狗のことを悲嘆の調子にて語り居たりしと云ふ。又たブレー氏の與へたる一例に曰く、「余が嘗て水醫法の手術を受けしとき、十六ヶ月なる一兒童ありて二回手術の傍に來りたりしが、余が洒浴の始まる每に彼は涙にむせびたり。余は想像して之れ恐く彼れが沐浴せるとき、自ら感じたる不快の感覺を記臆するを以てなるべしと思へり。余は彼をして此苦しき狀を見ざらしめんが

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

為め遂に彼を室外に出したり。然るに彼は再び入り來りしを以て余は室内に止め置きしが、彼は始終涙にむせび居り、又椅子に掛けたる襯衣を取りて余に着せんとなしたり。此同情的感應は余をして深く感ぜしめたり」と。又たプレー氏は曰く「同情は夙に其萠芽を發するものにして嬰兒は生れながらに感情の標號に關する本能的知識を多少有するもの丶如し。又た之れと結合して笑顔を以て他人の笑顔に答ふる自然の傾向を有す。即ち嬰兒が他人の感情に關する漠然たる直覺的知識を有することとは未だ自己の經驗が、特殊なる顔面の運動(笑顔)と快樂の感情との同伴することを教へざる以前に於て既に其母の笑顔に應答する事實によりて之を知ることを得べしと。此等の諸學者が云ふ如く同情が夙に發現するものなることとは、嬰兒に注意する人の能く知る所なるべし。例へば嬰兒が其兄姉或は他の兒童の泣くを見て自分も亦た偶然泣き出すことあるは吾人の屢々目擊する所なり。

斯の如く同情が速かに發現するは既に吾人が遠祖より代々一種の傾向を腦中に遺傳せられたるにより、未だ自己の經驗を待たずして、外界の標號的刺戟によりて起るものなり。故に同情は既に論じたる恐怖或は怒の情など丶同じく全く自發的に起るものなれども、其性質に至りては前者と大に異なる所あり。恐怖或は憤怒などは全く自躰を保護する為め自然陶汰によりて賦與せられたるものなりと雖ども、同情は純粋なる愛他的活動の根本となるものにして、人類が自己を損し自己の利益を犧牲となして、他を利し他を助けんとし、或は他のもの丶快樂を以て全く自己の快樂と感ずる傾向なれば、人類の社會的結合を保持する要情たるなり。而して此感情が社會の發達と共に益々發達するものなることとは、歴史上明かなる事實たるが如し。之れ人類の關係を密にし社會を發達せしむるに缺くべからざる動機なるを以て、一方に於て社會の發達は之を發達せしめ、又た他方に於ては同情の發達は社會の進歩を助け、相待て人類社會をして幸福圓滿の境に達せしむる自然陶汰の作用たるなり。

同情の發達するは經驗の積集を待つものにして種々の異りたる苦樂を自ら經驗するにあらざれば、各種の人に對し同情を表する能はざるものなり。例へば富家に育ちし人は貧民に同情を表する能はず、又た教育なき人は教育ある人に同情を表する能はざるものとす。之れ各人が快樂となし又た苦痛となす所は各其境遇によりて異なるを以てなり。然るに互に同情を表し得ると得ざるとは大に人生の幸福に關係あるものにして、社會的結合上に甚だしき疎密の差を生ぜしむるものなれば、嬰兒の時期より種々の經驗を與へ廣く人類に同情的感應をなし得るやう發達せしめざるべからず。又た同情は嬰兒期に於て始めて現はるや、實に活潑なる動機なるべしと雖ども將來複雜なる心情の發現するに從ひ、往々自利的感情の為めに壓せられて大に其勢力を減じ、其人の品性を形造るに當り主要なる元素となる能はざることあり。譬へば一國の内閣を組織するに當り、其國の發達を助くる善良なる政黨勢力を得る能はざるときは、其主義は國家の意志となりて實行せらる丶能はず、他黨の勢力に壓倒せられて社會の裏面に埋沒せられざるを得ざるが如し。斯る場合にありては其人の品性は自利的にして高尚なる人物となる能はず、故に嬰兒の時より教育上に於て宜しく注意せざるべからず。

書架

○夏日讀書

消夏の良法は、隨意の好書を隨意に愛讀するにあり。先人を尚友して、幽思、邃想を探れば、喩えば、冷泉の湧くが如く、白流の叢下を出づるが如く。淸調、涓泉として掬すべし。何んぞ悶熱をうれひとせん。

○露伴と紅葉

露伴子と紅葉子とは、單に文學上の批評の題目となると勿れ。われ請ふ二子が錦腸にうつろふべき現代の二樣の風情を觀察せん。

○基督教の特徴

試ろみに、六合雜誌の近號(七月分)を採て、橫井時雄、內村鑑三、二氏が、基督教なるものゝ性質に對する解釋を比較せよ。橫井氏は、道を說き、內村氏は、恩寵を說く。而して、是れ基督教也と確認する所ろ、相ひ同じ。若し、此の二人をして、其信ずる所ろを主張せしむれば、玆に衝突あらん。而して此の衝突や、基督の心の中にも、包容せらるべからざるか、否や。嗚呼、基督の心は、宇宙の如し、包容濶大にして、頓はかに限定すべからず。是れ吾が得たる所ろの基督也と言ふは佳なり、基督の心は是耳と斷定するに至りては、既に當を失せずや。

○危機一髮

園珍子、「新聞紙上、危機一髮の進化」を書がきて曰く、七月一日に危機一髮、七月二日に危機二髮と、八日にして遂に坊主をチョン髷に化せしむ。

○ふみのはやし

錦城女學校文學會より發兌す。同校に關係ある人々の文章詩歌及び報告にして、磯貝雲峯氏編輯たり。今や、西京同志社にも之あり、東京明治女學校にも之あり、諸校追々如此き機關文誌を發兌するに至らんとするは、賀すべき也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

時　事

○果して衝突したり

前號社說、日本の花嫁事件に關して、内外國人感觸を異にする趣むきを敍し、且つ未然の衝突を掛念し置きたるに、果せる哉、日本基督敎會の大會に交涉せんとて集まりたる、其議外國宣敎師大會は議決すらく、（大意）

田村直臣氏の事件は、不道德の事と思はず、之によりて敎職を免ずるの理由なしと信ず、大會此の度の處置は、愛と公義との道に於て遺憾あることを覺ゆと。

然るに、大會は此の議決の告知をうけ、公然議場に於て朗讀せらるるを聞き乍ら、恰かも謹聽せし躰爲にて默々に附したるは、奇怪なりとす。大會にして若し公義と大愛との道によりて一人を處罰したるの確信あらば、外國宣敎師が如此き議決と告知とに對して、斷然たる應對なかる可らず。田村直臣氏、海外に日本の名譽を毀損したりとて之を處罰したる大會は、現在目前に於て、大會の名譽を毀損し、日本國風の斷査する所ろによつて公明正大の處罰を爲したるを輕侮せる外國宣敎師あるに、呆然鬭發せず、恬として識らざるが如くするは、抑そも確信あるものか、氣節あるもの乎。吾人は、田村氏を處罰したりてふ公義公憤の何處に存せしやを疑ふ。

○衝突の結末何如ん

曰く、情實ありと。固より何事にか、情實なからんや。もし人情を以てせば、初めより田村氏に忍ぶべからず、獨り何すれぞ外國宣敎師に對するに至つて、初めて人情にもろかるべきや。吾人は明言す、もし基督敎界大淘汰の公義に激し、敎師社界の氣風を振作する積極的方針の爲めと言ふにあらずんば、單に一小冊子「日本之花嫁」の故によりて田村氏の敎職を免ずるは、過酷なりと。吾人初めより、情に忍びて公義の爲めに熱發する所ろのものありしが、彼の外國宣敎師會の告知に對する大會の行爲を觀るに及んで失望せり。あゝ何んぞ此時に至りて初めて情實を言ふや。もし情實の爲めにすとせば、初來人情によつて田村氏に涙を注ぐべかりしならずや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○盛んなる哉、新聞紙

新聞紙上、占卜、懐舊談等の記載あるを見て、必らずしも、時勢の退歩と速了するとなかれ。寧ろ、如此き舊事を好む輩僻に至るまで、新聞紙なるものを好讀するに至りしを知らずや。新聞紙の擴張まことに勢大なり。戸々の朝々、鈴聲に頸を長くして、配達を待つもの、家ごとに然り。海外今日の變、明々日は、すでに千門万戸の談柄となる。隆んなる哉、新聞紙。偉なる哉、新聞紙。ふかく其功績を念ふ。

○商界の文字ある才人

新聞紙中、商况を記るす彌よ精はし。而して、之を記るすとの如何にも片くろしきを見れば、商界に文字ある才子の入込めるは彌よ多く、商界の勢力の加はると亦彌よ速やかなるを察す。多望なる哉、商業界。

○三國連想錄

◎境遇は惣べて吾が敎となすべし　採つて以て吾が益となすものを活學者と云ふ。目前幾多の頁書あるに、强ひて之を蝕虫故堆の間だに求めんとす。如此き輩は、たゞ文字に驅らるゝのみ、共もに人生の活務を談ずるに堪へず。

◎方今もし戰國策を讀まんとせば　請ふ暫らく之を止めて、他の韓山に生ける戰國策を活讀すべし。時務を知るは、俊傑なり、勢機を察するは、夫れ神人か。

◎人往々春畝伯を責む　伯や果とに優柔か。己れ暫らく之を許するとを止めん。但だ玆に彼の喃々嘵々たる多言の論子に告ぐ。諸君も亦た同類の地位に立ちて、彼と均しき優柔の軟策を執りつゝあるとなき乎と。請ふ先づ足下直接の現境より比較し來れ。世上何んぞ「情實」を以て辨とするものゝ多きや。論子もし此邊の實驗ありとせば、汝は未だ春畝を評するの權理を有せざるもの也。

◎經濟子曰く　一朝戰機開かば、立どころに特別支出の供給を得んと、凡そ一億万圓と。既に、此の維持あり、更に國論の歸一を得たり。內閣、今にして大ひに決する所ろあらば、勝算歷として火を睹るが如し。勢機再たびすべからず、氣合ひ徒らに空耗せしむべからず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎あつし〳〵と言はんとして　忽まち、彼の半島の帝師を憶へば、熱汗、背に流るれども、慚ぢて急かに冷やかなるとを感ず。

◎一朝火ぶたを切り　炮聲滿天に轟ろかば、帝國臣民の元氣更に幾層倍の激進をやせん。たゞ、あはれむべきは、貧困の民なり。米鹽の價、增すと夫れ幾何とならん乎。彼等、帝國將來の光榮を望むに遑まあらず、目前すなはち餓えんとす。富人冀はくは、念とせよ。

◎朝鮮國王近臣に問ふ　日本國民は何如んと。某、答ふらく、吾輩淺俠と。細國の小儒もとより論ずるに足らずと雖ども、亦た大ひに鑑みる所ろなかる可らず。

◎君子先づ輕侮するとを止めよ　朝鮮豈に傑子なからんや。國危ふして、家つねに安からず、人心久しく荒れ、天命しきりに動搖す。此時に當りては、志士朝暮に感慨し、恨思日夜に迫切して、自から激厲奮磨せざるとあらじ。今の弊は、稍弊なり、今の惡政は、閔氏の曲政のみ。たとひ滿朝一人の英物を見るとなしとも、八道山深き所ろ倘ほ虎棲めり、豈に四方時をまつて密かに隱待する所ろの吉士なからずや。

◎清國の富測るべからず　滔々たる出稼人は、たゞ其富を用ひんが爲めの役夫と知らずや。在朝の白銀そも〳〵幾千ぞ、百年前の公版預算を襲用して、而も臨機格外の國用立どころに辨ず。清朝の金庫は猶ほ金鑛の如きか、其の藏せらるゝ幾何なるやを知らず。彼が遲鈍は、切迫せざる耳。彼が欺むくは、國法に頓着せざる耳。既に甚だしく驕ぶる、豈に其の小恥細辱とする所ろのものに顧慮せんや。支那は、夫れ法外の國か。之をして自覺自醒せしむるは、大日本の刺激にあり。

◎支那を敏活ならしむるは　鐵道の布設にあり。然れども、清人の墳墓到る所ろに存して、彼輩之を重じ鐵道の過ぐるに忍びず。之を敷かるれば、則はち密かに破壞す。此によつて、未だ急かに鐵道を布設すると能はずと。左れど、或る人は論ず、これ李老傑の政略のみ。彼れよく清國の現狀を知了す、往來の便を開かざるものは、故意に由ると。それ、或ひは然らん。

◎朝鮮內地の天主敎　八万の徒ありと稱す。而して、一言の改革談此徒より出るを聞かず。支那內地の舊新敎徒、極て少し、而して矯風改善の議論を其間に聞と高し。支那は、膨大の國な

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

り、人の種別容易すべからず、言論甚はだ自由ならん。
◎大勢は一轉したり　戰ひの開くると否とに關せず、對外進取の氣象既に滿潮の如く押寄せたり。保守反動は、正さに葬むられたり。將來は、實に大有爲の時節となりぬ。感謝すべき哉。

○朝鮮事件の前途

朝鮮事件の前途は何如ん。恐らくは、開戰の運びとなるまじ。左れど、吾國權の主張すべきを主張し、吾國俠の盡すべきを盡し、而して尙ほ清國と衝突するとなくんば、此れ光榮ある平和なり。如此くして戰ひに至らざるは、これ感謝すべき前途なり。吾人は前途の如此くならんとを信ず（十六日記）。

○惣撰擧も忘るゝ也

海外に事あるによりて、惣撰擧の醜聲を聞くと稍や少なきが如し。他日、第七議會の開かれん日、希はくは、同胞、國家の大事の爲めに、麗はしく妙合齊和し、吾國民の高義をして、東亞の立憲政史を美ならしめんとを。

寄書

地方に於ける有教育女子の情態

信濃　松籟生

余は今ま田舍に在りて見、且つ感する所を書して以て敎を大方に乞はんと欲す誠に田舍に於ける女子に就きて高等小學以上の敎育を志願するものを見るに概して左の條件の下に立つが如し

第一。容色の揚らずして爲めに結婚に縁遠きもの
第二。家富まずして婚資等に乏しきより獨立生計の爲めにするもの（故に多く縣立の師範學校に赴く）
第三。學問を好むもの

或は右三條件の中、其一のみを有するもあらん或は其の二を有するもあらん亦た三件を具備するものもあらん然り而して第一條件一つの爲めに奮進するは是れあり第二條件一つの爲めに奮進するは是れあり去れど富家に生れ容色優れたる少女にして只だ學問を嗜好するが爲めにのみ更に高等の敎育を希望するものに至ては殆ど之を見ざるなり

偖々此等少數の女子が思ふ如く稍々高等なる敎育を受け得たる以後の成行きは如何

余が見る所は專ら尋常師範學校出身者に就てなり而して世俗の標準を以て之を測れば彼等は實に不幸至極のものと言はざるべからず何となれば彼等の多くは（十中の八九）既に婚期を過ぎ去れりと雖も未だ配偶を得ざればなり恐くは彼等、老處女を以て生涯を暮らすの決心を有たざるべからざるべければなり夫れ今日の田舍に在りては師範學校卒業の女子と言へば優等の位地を占むるものなり而して之を娶らんと需むるもの〻却て是れなきは何故ぞや余の見る所を以てせば蓋し次の如き事情によるならん

第一、女子の側に於ける事情
一、容顏の美ならざること
二、資力乏しきこと
三、年齡の長したること

（師範學校を卒業したればとて或は二十歲、多くも二三を超ゆるのみにして敢て長したりと言ふべからず而も難婦を望むの弊は尙ほ之を以て長

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

過したりとなす)

四、女子が多少の自主獨立の思想を發達せろことし(自主獨立の思想ある女子は滔々たる男子社會の敬して遠くろ所なり而して女子自らも良人撰擇の上に於て他の親命唯屈服するの類たる能はず)

第二、男子の側に於ける事情

一、有教育の女子を娶らんとするものは地方に於ける先づ上位地の男子なり而して是等男子の思想誠に卑く道德上の觀念極めて賤きが故に寧ろ有教育の女子を厭ふ

二、擇妻の方針、姿色にあらざれば則ち妻家の富榮如何に在り

第三、家族の內裡に於ける事情

一、社會の進步に後れたる舅姑は奴隷の如く使役し能はざる女子を厭ふ

二、門閥資力等の對等を主張して其他を知らざる者の間に於ては學生育ちの女子は容れられず

余は今日に至りても尙ほ且つ家庭の生活に適當せむと言ふを以て女學生を咎むるものあるを見て竊かに其の謬見を歎ぜずんばあらず毀棠の女子を賭ふて之を終生の伴侶とするの徒にして實に此の如き咎め立てをするの權利あらんや是れ必竟、自家の非を辯護せんと欲するより出づる已むを得ざるの口實のみ

去れば余の見る所を以て假りに大過なしとせば田舍有數の有教育女子をして獨身の生活に終らしむるは則ち男子の恥辱、家制の弊害なるにあらずや

思ふに自ら進で高等の教育を受け之を以て世に立たんとするの女子は有望の靠なり然れ共彼等は今日の社會ー特に田舍に在りては結婚の念を絕たざるべからず故に彼等は先づ之を覺悟して以て健固に其の意志を保たざるべからず而して女子教育の道も亦た實に茲に省る所なくんばあらざるなり

余は獨身生活の果して正道なるや否に就ては未だ究むる所あらず然れ共獨身女子の社會的事業に働くありて始て婦人の實力を發揚し其位地を高むるを得べしと信ずるなり故に余は社會進步と背へる大主眼の爲めには必ずしも有教育女子の獨身生活を以て終るべき形勢を要ひず寧ろ造化の攝理と進步の動機との此の間に潜伏するにはあらずやと考ふと雖も而かも教育の方法にして之に對する用意なくば則ち彼等をして絕望の淵に沈ましむるなしと言ふべからざるなり。之を教育するものは他日の良妻賢母たるの道を以てするなり教育せらるゝ所の女子は無形の智識才德を以て他の容色金力に打ち勝ち之によりて良妻賢母たることを涵きつゝあるならん而して此の準備と希望とは少なくも今日に於ては水泡畫餅に歸すへきを思はざるべからざるなり。余は女子教育の今日の大急務なるを信す而して之と同時に女子教育に對する精神の大に改革を要するものあるを信するなり

時報

◎皇室

○皇后陛下の御仁德　目下相州葉山の御用邸に御滯在あらせらるゝ　皇后宮陛下には去程三浦郡長小川義周氏が御機嫌伺ひの爲參殿せし砌御思召を以て葉山村人民へ金二百圓、葉山村小學校內越村小學校へ各金二百圓を御下賜相成りたるに村民は何れも　陛下御仁德の厚きに感泣したりと承はる又　陛下には御警衛の爲め出張せし神奈川縣警察部屬官を始め巡査及び村長役場筆生等へ夫々酒肴料若干を下賜せられしとぞ

○昌子房子兩內親王殿下　去る十一日上野發汽車にて佐々木御教育主任夫妻其他數名供奉し日光へ成らせられたり

◎學校、教育

○華族女學校の儉素　同校にては生徒の服裝に關し去る日生徒父兄に宛て左の注意書を發したり

女子の服裝は其人の地位資產に相當すべきものにて一定すべきものに非ざるも學校の生徒としては力めて質素を主とし華美の風習に染まざる樣注意すべし當校に於て是迄生徒に對し注意を與ふることを怠らずと雖も猶家庭に於て同樣の御注意あらんことを望む

明治廿七年七月　　華族女學校

服裝の材料は質素なるも縫模樣などのハデに過ぎて本校の生徒に不似合なるは御用捨ありたし

因に記す同校にては別段學期試業を行はず平素の成績を以て進退を昇下せしむる次第にて本年も其調査概に濟み去る十四日より暑中休暇となり十八日午前八時半より卒業證書授與式を舉行し且つ昨廿日より入學試驗を行へり

○音樂學校卒業式　高等師範學校附屬音樂學校卒業證書授與式は去る七日午後上野なる全校演奏場に於て舉行せられ內外の紳士淑女無慮八百餘名參會し午後三時過式を始め上原主事先づ當學年間事務を報告し後嘉納校長證書を授け且つ告別

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の辭を述べ生徒總代麻生ふく子の謝辭あり牧野次官の祝辭等ありて式を終り夫れより卒業生其他生徒の唱歌、洋琴連彈、同獨彈、ヴアイオリン、洋琴の合奏等數番を演奏ありたり卒業生の人名は左の如し

洋琴　麻生ふく子　同　三浦みほ子　同　西川より子　同　野村かく子

ヴアイオリン　原田ふじ子　同　高滋　孝一

同校の現在生徒は右の六名ともに七十四名にして男生女生各半ばし近來男生割合に增加せりと

○大坂川口ウヰルミナ女學校　第四回卒業式を去月二十八日執行せり、卒業生姓名は左の如し

高等科邦、英、兩科　奥野いく、西野さだ。高等科英語部、星野きくゑ。本科邦語科　楢本あや、星野きくゑ、井上きぬゑ、阪田さく、今村ひろ。本科英語部　楢本あや、小牧桃枝、今井たま。

○大坂浪花女學校　の卒業式は前號に報したりしが今回の卒業生は阪本まつ、田中のぶ、鈴木はつの三氏なり。

○長崎梅香崎女學校　第三回卒業證書授與式は去る廿一日執行せらる卒業生は高等科卒業生三名、本科卒業生十五名あり

○横濱フエリス女學校　は去る十八日閉校式を擧行せり

○スミス女學校　北海道なる同校は去月二十八日第二回卒業證書授與式を擧行せり

○聖經女學校　横濱なる同校にては去る十九日設立三十年紀祝會を催ふしたり

○熊本女學校　同校にては去る十日第三回卒業式を執行せり卒業生は左の如し

普通科

渡邊元子(福岡)渡邊鶴子(同)野田可笑子(熊本)大岩喜久子(同)

邦語科

上村信子(宮崎)藤野滿子(仝)

○女子部生徒の養蠶　福島縣尋常師範學校にてはかれて生徒をして養蠶業に從事せしめたりしが今年同生徒の飼育せし蠶兒より得たる繭は二石以上に達したりとぞ全躰同校摒立の蟻量は七匁五分にて同校生徒か始めての手際として且つ本年の作柄は一般に六七分の作柄なりしにも拘はらす斯く多量の蠶繭を收めしは偏に教師其人の注意可なりしに依る可し同校にては本年度に於ても亦飼育する由にて本年は場所の狹隘なるか爲めに女生徒の應接室を以て蠶室に供し辛ふして僅かに七匁五分の蠶兒を飼育せしか來年度に於ては縣會に向つて蠶室の建設を促かす抔の意見もありと云ふ實際數多き女生徒の手にて養育する事とて猶充分に注意の行屆く限りは女生徒に取りては極めて善良なる仕事なれは縣會も喜んで其希望を充たす事なる可し因に同成繭は其質極めて好良なる由なれは高價に買入るゝものある可しと云ふ

◎美談

○節婦勝田むめ子　茨城縣常陸國新治郡志士庫村塙實母勝田むめ子は其家系彼の赤穗の義士勝田新左衛門に出で勝田家より塙家へ嫁ぎたるものなるが流石名家の末とて婦德能く備はり資性溫良にして克く舅及び夫に事へ初め夫中風症に罹り後廢疾の身と爲るや家益々貧困に陷ると雖も毫も屈撓せず專ら力役と機織とに從事し兼て病夫を看護し尋て舅又疾に罹り養祖母亦老疾を發するに及びても拮据家計を維持し獨力以て藥餌の資に供し能く病者の嗜好を充たしめ夙夜鞠躬看護懈らざる十有九年一日の如く鄕黨皆之を賞し居りしが去る二十日茨城縣廳より其志を賞して金圓を下賜されたり

○貞婦水嶋ふさ子　富山縣知事より左の賞狀を下附されたり

高岡市片原横町平民木江辰次郞母　水島フサ

資性溫厚篤實夫に從順にして毫も其意に逆はす常に夫を勵まし業務を助力すること多年而して夫不治の疾病に罹るや看護に意を用ひ其歿するや悲歎啻ならす爾後益々貧窮に陷り晝夜他人に傭はれ賃錢を得僅に家計を維持し克く節操を守り貧困の中教育の忽にすへからさるを悟り子女に教育を受けしめ又他人に接する謹愼恭功なる等多年一日の如し其志行洵に奇特に候事

明治二十七年七月五日　富山縣知事正五位勳五等德久恒範印

◎片々

○德川前將軍夫人の逝去　豫れて府下千駄ヶ谷家達公の邸に佐藤國手の手にかゝり療養中なりし德川慶喜公夫人みか子は去る十日の夜不歸の人となられたり右の趣叡聞に達し同日皇后陛下には特使を以て御弔問あらせられ又翌十一日は天皇陛下より靈前供物として色々の品物を下されしと葬儀は十五日上野東叡山寬永寺に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て營めり。

○青山醫學博士の夫人　青山博士黒死病に罹りたりとの電報に接するや知友の驚愕一方ならず取り敢へず悲電の趣きを博士夫人に報ぜんとせしが（博士には兩親なし）流石に氣遂れして誰行かんとする者も非ざりし勿論斯くて止むべきにあらざれば遂に親友森博士（林太郎氏）が引き受けて通知することなり進まぬながら博士の留守宅を訪ひ漸くにして其事實を打ち明けたり氣弱き婦人の如何ばかり悲嘆に暮るゝならんと思ひの外婦人は端然として姿を正し其事なれば出立の際呉々も申し置きし事にて素より覺悟の上なれば女々敷ことは申さゞるべし左るにても撈任の仕事は最早畢はられしかとの問に森博士も襟を正し仕事は充分に成功し英名を海外にまで轟かしたりと答へしに夫人はそれが何よりでありますす仕事さへ仕遂げなば夫の身は惜むに足らずとし此の危篤とある事の死亡てふ意味にても說方なしと陳べ終つて堰き來る淚を雨瞼に抑へ凉き笑みを漏らして挨拶したる健氣さには森博士も感服したりとなん（大坂朝日）

○鳩山夫人裁縫科を卒業す　法學博士鳩山和夫氏の夫人春子は曾て神田一ッ橋外共立女子職業學校の英語教師として才名ありしが和服裁縫の術に暗しとて教師の身を以て同校裁縫科の生徒となり科中の末席に坐して稽古を始めたるは今より三年前のことなるが爾來屈せずして三星霜を經此ほど遂に卒業證書を得たりといふ此の博士にして此の夫人ありとや云はん

○岩崎久彌氏の夫人　夙に家政の道に意を注ぎ分厘の冗費だも見ず近來は機織の技に熱し一室に數個の器械を据付けて自ら木綿絹等の織物を作り家人婢女にも勸めて之を織らしめ主人久彌氏より僕婢に至るまで各々其衣類は總て自製を用ゐることに定め成るべく呉服屋の出入を節約せむことを力め居ると云ふ

○女子慈善館設立の計畫　婦人矯風會は豫てより同じ國民と呼ばれ同じ一の地を踏む同じ一つの太陽を戴きて生活する同胞婦人が實に聞くも耳の汚がれ見るも目の汚がれとなるへき業を公けの營業となし尙足らでや耻を海外にまで洒らし大にしては一國の名を汚し我國婦人全體の品格を下げ小にしては將來事をなさんとする有爲の青年を泥中に引込み今日事をなしつゝある有用の人々の心氣を蕩かし凡ての不義、不經濟、不道德、不名譽の原因を作り且つ之れが媒助となりて殆ど人として人にあらざる擧動をなしつゝあるものを救ひ正業に就かしめんとの計畫あり已に委員を設けて一方には土地を求めて彼等の爲め住ふべき邸宅を備へんとすると同時に一方には醜業婦女の實况を調査して適當の方法に依りて不正の業より避けしむる事に盡力しつゝありしに幸にも府下大久保に於て千數百坪の土地あり中に二三の家屋ありて卽坐に入るゝを得べく山あり谷あり農作、養蠶、果實の植付、製糸の業等自由に着手して直ちに自活の道を得然れども此地を得るには千八百圓を要すと雖ども同會が大方有志者より得たる寄附金は僅に數百圓に過ぎず故に此際大ひに大方義俠の紳士淑女に訴へて其志を果たさんとし茲に寄附金の募集をなすことゝなれり而して此義捐金は本社亦た之れが取扱の勞を採る請ふ同會の志を憐れみ其擧を助けて其効を奏せしみよ（毎日新聞）

○婦人從軍を願ふ　石川縣金澤市尻垂坂通二丁目の山本ナオと云ふ五十餘歲の婦人は戰地に於て薪炊、看護等相應の職掌に服し聊か國家の爲めに盡さんとて去る四日從軍願を差出したるよし其旅費は自辨にして且つ所持金二百圓を軍用費の內へ献納の義を出願に及びたりと

○又　熊本に於ても去る程より各派協同して報國義團を組織し一朝事あるの時は挙つて軍に從ふの用意を爲しつゝある中には熊本女學校生徒の一群もありと云ふ

○惜むべし支那人の風儀　耻辱を耻辱とせず打たれても踏まれても金さへ儲かれば本望なりとは出稼ぎ支那人一般の常にて先頃築地入舟町に寄留して西洋洗濯を業にしたる陸珍爺と云へるは掃溜に投棄てたる魚類の骨或ひは野菜物の屑等は愚か猫鼠の死骸さへ拾ひ取りて之を三度の食料に充て又烟草の如きは他人の吹殼を買ひ集めて之を珍重するより乞食珍爺との渾名を與へられしも恬として耻る色なく本邦人がからかひ半分に反古の片紙又は釘の折などを與ふれば彼は地上に跪づきて拜受し之を貯へ置くに塵も積れば山の譬へ彼れは悉く紙屑屋古銅屋に賣渡していくらかの錢に換ゆるを常とす斯くの如くにして五ヶ年間辛抱に一千三百餘圓の金を産出し遂に之を携へて歸國したり、之にも增して驚く可き同國人の卑吝なる一話は入舟町に寄留してチーハの周旋を業とする林昌吾と云へる男常にチーハの賣り買ひをなすを以て日々彼が取扱ふ金額は二十圓內外にて又賣買の口多き日は百圓位の金を扱ふことある由にて毎日右の金貨を右から左へ受け渡す時かれて用意の鑢にて少しづゝ銀貨の端を削り其の粉を溜ることに汲々し殆んど五ヶ年を經たる後銀の鑢粉五百三十目を得此程歸國するに臨み之を或る下銅屋に賣却して七十三圓五十錢を得たりと一聞嘔吐に堪へず（讀賣）

△評論の評論　扶桑新聞、評論二十五號を評して曰く强兵の策豈鍾を論せんやと題する一文頗る時弊に適切にして武人項門の一針以て懦氣を振ふに足れり生死論は近來稀に見る所の好文章透谷北村君を吊ふ文亦人情の極微を悉したり河内魚ぬのなる人の春の夕は何やら分らずそこが味のある所か知らず。

俳諧史傳　全

正價三十錢郵稅四錢

左は鬼眼生の本書を批評したる言なり「裏錦」二十號より轉載、因に云ふ機曲子の評言は本誌三百八十一號に出づ

俳諧史傳と題する一卷は、誰が著はして、何處より發行したるかは、前號の紙上に、機曲氏が廣告したれば、爰に述ふるを要せず。余も此の一卷を讀み、聊か感ずる所を述べむ。余は先づ其の序言を讀んで、『其淵源推移の跡を究むるとゝもに新詩界開拓の方鄕に向つて一資料を與へむとを期したりしなり』と謂へる抱負の輕からざるを喜ぶ也。又『亂雜なる結構、淺近なる評論、未熟なる筆法は余が双肩に擔ふところにして、慚汗脊を濡すの思あり』と、至りて謙遜なる言葉を見れば、著者は溫厚の君子にして、斯道に堪能なる士なるとを疑はずんばあらず。斯くの如く謹厳の士に對して無責任の暴評を試むるは、文士の最も卑む所なり。余は機曲氏が、如何ほど俳諧を學びしやを知らず。近頃は、蘆間の蟹の橫文字の五六册も叩き、何事も筆の端に誤魔化し去る似而否文學者多しと聞く。思ふに、機曲氏の如きは、決して斯る人に非らざる事は、余が確信する所なり。去れど、俳諧は、日本獨得の文華なれば、歐洲の文學を評する批評眼は、決して用ゆ可きに非ざる也。機曲氏も此事を知れるにや、例の筆法を用ゐざりしは、余が大に滿足する所、深く氏に謝せずんば非ず。然れども、人は、餘り得意とする時は、正當なる見解を失ひ、隨分法螺も吹きたき者なり。斯く言ふは、余が人を惡し樣に云はん爲にもあらず。自分にも經驗のある事なれば也。

機曲氏は、所謂『いはぬは言ふにいやまさる』てふ名言を心に銘せしと見え、俳諧史傳に就きて、『意見らしき者』『批評らしき者』は見受け申さず。唯後段に於て、『吾人は著者が其位置を明かにせざりしを惜しむ、平民的なるのみが俳諧の價値なりといはゞ、吾人はなかなかに承知するを得ず、況むや俳諧を以て平民的なりとするは、其外形にありて其內心にあらざるをや、奈良、平安兩朝に於ける和歌と、江戸時代に於ける俳諧も、社會の上より觀察せば、何ぞことなる處かあらむ、奈良、平安の社會を研究し、江戸の社會を研究せば、ことさらに俳諧を以て、平民的云々するの愚なるを知らむ、更に和歌と俳諧とを比較すれば、平民的云々の論は、僅かに外形にとゞまるの淺薄なるを知らむ、』と謂へるあり。一寸聞けば、機曲氏なる者は、如何にも博學らしく、多才らしく、或は『愚』なりと言ひ、或は『淺薄』と罵る。誠に其批評の『妙』なる、感ずるに堪へたり。批評家とは、夫れ斯くの如きを云ふ乎。機曲氏の評の如きは、無論俳諧の何たるを知らざるのみならず、并に和歌の何たるを知らざる者也。其著者を罵りて、『愚』『淺薄』と謂ひ、機曲自身の『愚』『淺薄』を表するを見ては、余は氣の毒に思ふより外なし。

又曰く、『著者は吾人をして俳諧の起りし事を知らしめたれども其「何故」に起りしかを敎へざる也、和歌の腐敗を以て俳諧の發達をしたれども、同じく又其「何故を」敎へざる也、俳士に脫俗者多きを述へられたれども同じく又其「何故」を敎へざるなり、』と。余は又機曲氏に問はんとす、子は「何故」に斯る言を吐きし乎。本書の主とする所は傳ふるに在りて論ずるに非らず。機曲氏は、一の單純なる原理を以て、何事をもあてはめる所の文學論を喜ぶならんも、世間には左樣な馬鹿は少きもの也。余は著者が、輕々しく其「何故」を說かざるを、却て斯道の爲めに祝す。思ふに著者は、斯道に熱心なる者なれば、益々俳諧を研究し、後に俳諧史傳にあらざる書に於て、其の「何故」を說く事あるべし。蓋し此書に於て「何故」を求むるは、魚屋にて牛肉を買はんとするか如し。機曲氏よ、文明の進むにつれて分業のあるものと知り玉へ。

第一余か本書を讀むで感ずるは、其の順序の整然として亂れざると也。先づ俳諧の字義、俳諧の起源を略論す、宗祇、宗長、肖柏、宗鑑、守武を述へ、檀林派、伊丹、正風、蕉門の十哲と順を追ひて傳說し、第九章には、諸國の俳諧を示し、第十章には結論として、著者が俳諧に對する意見を論ぜられたり。余は其の當を得たるを喜ぶ。

第二俳人の風躰及び本領を示さんとて引證せられたる俳句宜しきを得たる事是也。一々枚擧せは限なしと雖も、其一二を擧けんに、松永貞德の風躰及び本領を示さんとて引かれたるうちにて、

「門々の松葉や君か御代の數」「せばくとも御宿申さん今朝の春」「北野とのおすきの物や梅の花」と言へる句の如き、又「山や故鄕にしき着て行く入日影」「花よりも團子やありくかへる雁」「七夕のなかうとなれや宵のつき」北村季吟の「一僕とぼとぼありて花見かな」「女郞花喩はゞあはの內侍かな」「宮士の山師走もなき景色かな」「數袖のすみれにしめる野陸かな」「月、寢や一度にこりす二度にこりす」西山宗因の調を知らさんとて「やかて見よ棒くらはせん蕎麥のはな」「さす影や末は武藏の小盃」「秋はこの法師姿の夕べかな」「秋や來るなうなう夫なる一葉舟」向井去來の風格を示さんとて「鉢たゝき來ぬ夜となれば朧なり」「名月や海もおもはず山もみず」「凉しさよ白雲なから入日影」「あそぶともゆくともしらぬ燕哉」「百姓も麥に取つく茶摘かな」又千代尼の「蜻蛉つり今日は何處まで行たやら」「百なりも蔓一筋の心より」「起てみつ寢てみつ蚊帳の廣さかな」「蝶々や女の道のあとやさき」と言へる句を引ける抔、皆其當を得て讀者を快よからしむ。如何なる名家と雖も、其句には、あまり賞む可からざるものあり。又其風調に似ざる者あるを免れず。著者は達眼の士なり。廣く其句を味ひ、以て其適當なる者を集む。其勞深謝せず

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

んはあらず。

第三著者は、所々に於て人物評を試みたり。是皆適當の評也。例へば、鬼貫を評して、『鬼貫は芭蕉を學びぬ、されどかれはかならずしも芭蕉の机下に俯伏するを要せざりき、蓋し平にして高雅、散にして清澹、これ上島鬼貫の本領ならむ』と言へるが如き、又芭蕉を評して、『彼は自然はいと偉なるところにも、いささいやかなるところにも、あらざる限なきを知れり、かれは造化の偉大なるを認識せり、かれは、おのれを、自然界における一人類として不可知的の高遠なる造化のまに〳〵したがはむとせり、かれ花を見、月を見て自然の美妙に浴せむとせり』と言へるが如きは、最も適切なる評言と言ふべし。又曰く、『この姿性をもつて、この理想をもつて、この伎倆を以て、平民的一新叙情短歌を徳川昇平の天地にひらき、二百有餘年の今日、泰西の文華を吸取して一紀元を轉ぜんとするに至るも、なほその餘流滚々としてつきざるは驚くに堪えたり、頃日新韻文なうながすの聲喧すしきも、その聲益高くして、その作は果して如何にかある、余等はこゝに至つて、憮然たるものあり』と余は切に同感を表せずんはあらず、又榎本其角を評して、『かれは世の榮花を浮べる雲の、あるひはあつまり、あるひは散り、ちりて行くところを知らず、消えて跡なきが如きを知れり、こゝに於て、貧困なにかあらむ、鍋ひとつ炮烙ひとつ醃菜一味、最もこれかれが心に適せり』と言へり。其他著者が、檀林、正風を論ずるの適切なる、思はず案を叩き快と呼はしむ。冒頭先つ著者は、其十章に、結論として、俳諧に關する一篇の論文を掲げたり。『思ふに俳諧は最も平民的のものにてありしなり』と絶叫し『夫れ俳諧は平民的に產れ、平民的に長じ、平民的に榮えたりき』と謂ひ、『俳諧は自然の風光を吟咏するの裡に、わが理想を發揮せんとするものにはあらざりき、ある時はかれ等はこれをなしたり、その理想を、月に、花に、發露せんとしたるよりも、むしろ自然を觀て、自然に吟咏せむとしたりしなり』と論し、又俳諧と和歌とを比較して、『前者はなほ踈術の如く、後者はなほ土佐繪の如きかたむきなからんや、何となれば、一はやさしき風姿、すなほなる風情を以て、あはれに詠せむと期し、一は幽玄をむねとし、高遠を主とし、閑寂を躰としたるものあればなり』云々と言へるが如き、實に人をして覺えず案をうたしむ。後段に於て、『嗚呼、社會の裡面に隱れて未た顯現せざる、わが大詩人によつて、鍛錬せられ、融和せられなば、俳諧果して如何の異光彩を、新韻文の面に煥發せしむべきや』との文字を以て局を結びたり。要するに、本書は俳諧流行の今日に於て出版せられたるは、大に賀す可き事にして、後進の士を益する事小ならず。文章も甚だよく、近來出版せられたる俳諧に關する書中にて、上乘のものなるべし。余は本書を讀むで益する所多きを喜び、非に余が評の足らざるを憫む也。

發行所　女學雜誌社書店

社告

「評論」第二十六號は本月五日發兌の所編者にて止み難き事情有之太甚だ遲延致候來る二十三日には必ず發兌可致此段愛讀諸士に謹告す

女學雜誌社

同志社病院看病婦學校

入學志願者ハ滿廿二年已上身體健康品行方正普通ノ書ヲ讀ミ算術ノ出來ル夫ナキ婦女ニ限ル學資ハ食料トシテ一ヶ月貳圓四拾錢ヲ要スル而已望ノ方ハ九月十日迄ニ申込マレナバ諾否ヲ報ズベシ

京都烏丸上長者町

女學雜誌前號要目

高橋傳五郎　北海孤島に道の爲めに殉死したる彼は如何なる人ぞ、茲に其品格精神を傳す

花嫁の著者　「日本の花嫁」の著者は、遂に大會多數の議決によつて教師を罷められたり、志士の所感如何。

禁酒の文　上杉鷹山公、諄々として禁酒を説く。之を説く常に如此なるべし。何人か感ぜざらん。

本誌代價

冊數	定價前金	市外定價郵税共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰)	一回	前金十錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。○二十行以上二割引。○四十行以上三割引。但し不道徳なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會組合等の記録を掲ぐるものにして一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部增すと定む。

發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

發行所　東京府北豊島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY